

訪問セミナー開催報告

(概要)

テーマ 「どうなる？これからの住まいと介護問題」
開催日 2007年3月30日 14:30～16:00
開催地 札幌市社会福祉総合センター第3会議室(中央区)
主催者 札幌高団連大学OB会
講師 奥田龍人氏 (北海道社会福祉士会 会長)
参加者 28名

3月30日札幌高団連大学OB会主催の市民セミナー・春の講座「どうなる？これからの住まいと介護問題」に共催として参加致しました。

セミナーでは、北海道社会福祉士会会長の奥田氏が、少子高齢化の中で社会保障を中心とした見直しは避けられない。高齢者のための介護保険もサービスの予想以上の利用により抑制されつつあり、特に療養型の廃止など、施設を増やすことへの抑制は強い。しかし、在宅サービスで介護が必要となった時のケア、特に重度の場合のケアは全ては保障されない。一方で家族との同居率は下がり、家族介護も当てにできない、という日本の高齢者の住まいと介護を取り巻く問題について、最初に講義されました。

その後、それらの問題の対策として、住居を集約化してケアを効率よく提供する方法が考えられること、その典型的なサービスとして、有料老人ホームの提供する特定施設入居者生活介護があるという話をされました。このサービスは実際に札幌ではもっとも伸び率が目立つサービスであり、これが「終の棲家」となるのが注目して見ていきたいという奥田氏の言葉を受講者の皆さんは熱心に聞いていらっしゃいました。

札幌高団連大学OB会では年に2～3回ほど研修会を実施していますが、今回は市民向けにチラシを配布したこともあり、OB会以外の方の参加も多くありました。受講者の皆さんは特に有料老人ホームなどの選び方などに関心が高く、講義後の質問が相次ぎました。

今回は高齢化社会の総体的な問題点と介護保険制度を中心とした講義でしたが、今後は「終の棲家」をテーマにした講義なども行っていきたいと思えます。